

## ChatGPTで仕事に変化か

### ◆ChatGPTはチャットボット検索だけでなく作業軽減ツールに展開

OpenAIが2022年11月30日、[ChatGPT](#)を公開した。私たちは調べ物をする時は、Googleにキーワードを入れて、検索結果が一覧表示され、一つずつ内容を確認していた。しかし、ChatGPTは検索窓に質問文を入力すれば、検索を実行し、その結果を自然な文章でまとめて内容を提示してくれる。また、まとめ方を指示すれば、表への加工などをやってくれる。

OpenAIはかつてイーロンマスクも投資家に名を連ねていた。15年12月にサンフランシスコにて設立されたスタートアップで、17年にはアルゴリズムTransformer、20年に言語パッケージGPT3を発表して検索内容の適正化、より自然な文章作成などに進化させている。OpenAIはさらに23年2月1日、[ChatGPT Plus](#)という上位アプリケーションのサブスクリプションを公開し、混雑時の優先アクセスや返答に要する応答時間の短縮などを追加した。

### ◆会話型AIの開発は、MicrosoftとGoogleの競争で加速が見込まれる

ChatGPTの方法もAppleのSiriなどのチャットボット同等の手軽さである。今までのGoogleなどの検索アプリを使った時よりも大幅に作業時間を短縮できる。現在のChatGPTは21年までの文献データなどで学習しているが、今後機械学習で成長し、より多くの情報源を背景に返答できるようになり、まるで有能なアシスタントがいるようなツールになるだろう。

MicrosoftはOpenAIに19年、21年に数十億ドルの投資を実施している。23年1月に[今後投資継続することとOpenAIとの協業を公表](#)し、強固な関係を築いている。MicrosoftはChatGPTを機能向上させ「Bing」を23年2月に発表した。Googleは対抗して自社開発した言語パッケージLaMDAをベースに会話型AIサービス「[Bard](#)」を発表した。

ChatGPTは①返答内容の正確性、②教育場面での不適切な使用など、課題が指摘されている。今後さまざまな場面で活用されるようになり、ChatGPTを上手に使いこなすには少し時間がかかるかもしれない。

【川島政彦】